

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 6月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	34901000017		
法人名	有限会社 ウェルケア		
事業所名	グループホーム やすらぎ温品		
所在地 (電話番号)	広島市東区温品七丁目13番23号 (電話) 082-424-8288		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成20年6月24日	評価確定日	平成20年7月15日

## 【情報提供票より】(20年5月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 1 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	11.2 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独	新築 <input checked="" type="radio"/> 改築
建物構造	準耐火建築 軽量鉄骨 造り 2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	78,000 円	その他の経費(月額)	1日あたり 600円	
敷金	有( ) 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(5月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	69 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 下山クリニック
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームやすらぎ温品は、開所前から現在に至るまで職員が話しあってつくりあげた理念と、グループホームの特徴と役割を基に多くの多様な機会を捉えて家族や地域へ伝えられている。その結果の一つの現れとして、利用者の家族全員の納得と理解の上で、ホームの玄関入口には入居前と同様に全利用者の表札がかかげられており、また、運営推進会議には多くの地域の方々の参加を得て、地域への理解と関係づくりや、近隣の他福祉・介護施設とは積極的に連携や交流を図りながら、地域等で必要とされる活動や役割を担っていく取り組みが行われている。これらのことや、職員全員は常日頃から接遇面やケア等の意見の統一と実践を図りながら、利用者の方々には尊厳の保持と安心と信頼に向けたこれらの関係づくりと支援体制に取り組みされており、利用者の方々には笑顔で安心して、心身共健康的で明るい職員と共に家庭的な雰囲気の中で生活されている姿が伺えた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回の評価が始めてであり、特に改善課題はなかった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の取り組みは、事業所全体で意義や活用方法等についてよく理解され全員で取り組まれており、その結果を踏まえてのサービスの質の向上を図っていく姿勢が伺えた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には、地域の方々や所轄の地域包括支援センターの職員等が参加して、事業所からの現在取り組んでいる内容の報告とともに、参加者から質問、意見等を受け、改善に向けた具体的な取り組みにつなげる姿勢が伺える。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 常日頃から、職員全員が家族との顔の見える関係づくりや、何でも言っただけの雰囲気づくりに努めながら、家族の来訪時や定期的の実施している事業所独自の顧客満足度調査で得られた意見や要望等はミーティングで話し合い、それらを運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所の広報紙は町内の回覧板と一緒にお願いしたりし、また、運営推進会議などを通じて事業所の役割を伝えたり交流の輪を広げている。また、近隣の福祉・介護施設と共同行事を行ったり、更に地域の行事などにも積極的に参加しながら地元の人々との関係を深めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを理解した上で、果たすべき役割を反映させるための理念を職員全員で話し合っつけりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼時には、出勤者全員で理念には必ず触れて確認し合うようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事などには利用者と職員が出来るだけ共に参加をしながら、地域の人達との顔見知りの関係づくりを行っており、また、地域で必要とされる活動や役割を担っていく努力が伺える。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業所全体で自己評価に取り組んでおり、サービスの質の向上に活かしていこうとする姿勢が伺える。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で得られた意見や要望及び懸案事項等は、職員全員で共有し、改善に向けての話し合いを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的開催している運営推進会議に参加されている、所轄の地域包括支援センターの職員を通じて、事業所の実情や取り組みを伝えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族などの来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話しあっている。また、他には電話などできめ細かく現在の様子を知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的実施している事業所独自の顧客満足度調査の結果や、家族等の来訪時を捉えて得られた意見等は職員全員でその要因や、課題を検討し、質の向上につなげている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常日頃から、各ユニットの利用者と職員はレクレーション等の機会を通じて顔馴染みの関係づくりを行っているが、やむを得ず職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取、スムーズに移行できるように家族等への配慮も含めた対応をしている。		
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域密着型サービスの実践力を見につけていくための事業所内外の研修などには、出来るだけ多くの職員が参加できるような支援と体制がとられている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連のグループホームとの交流や研修会などに参加をしながら、事業所や地域全体としてのサービス水準の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	職員が常に声かけを行いながら、利用者の視点に立って本人が職員やサービスの場に徐々に馴染むように、そして本格的な利用に移っていけるように柔軟な支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は共に日々の生活の中で、利用者の喜怒哀楽に関心を寄せながら一緒に過ごす関係づくりに努めている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	常日頃から少人数の馴染みの関係を活かして、利用者一人ひとりの思い・暮らしの希望、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	本人や家族の思いや意見を聞きながら、利用者の視点にたつて必要な事項を盛り込んだ個別の具体的な介護計画となっている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	定期的な介護計画の見直しはもちろん、本人、家族の要望や変化が生じた場合には、実情に応じたケアにつながるよう介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等と相談しながら、入居前のかかりつけ医と話し合いや情報のやりとりを通じて、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居に際して、事業所が対応し得る最大のケアと方針について詳細に説明している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけになっていないが、日常的な確認と対応の徹底を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の開所時から、利用者のペースや望んでいるペースに合わせながら、利用者が主人公となって暮せよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりから、食材の買物、配膳、片付けなどの食事一連の流れを利用者の意志や気持ちを大切にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入居前の生活習慣や、その日の希望や要望に応じて柔軟に入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの習慣、希望、有する力を踏まえて、何がその人の役割、楽しみになり得るのかを把握し、出来る範囲を的確にした上での支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の利用者の状態や本人の習慣、希望等のその時々状況に応じて、一人ひとりが外出を楽しめる支援に取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけられ自由に外にでれないことについて利用者個々の立場に立って考え、日中鍵をかけないで支援していく方針で、努力をする意識や姿勢を徹底させている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練や、消火器の設備点検を実施している。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつも含めて、利用者一人ひとりが一日全体で、食事や水分の摂取状況を職員全員が常に意識しながら関わっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感刺激への配慮を行いながら、生活感や季節感のあるものをうまく活用しながら暮らしの場を整えている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物を傍に置いておくなど、本人や家族と相談しながら個別に応じた工夫を行って居室の環境づくりに配慮している。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名

グループホームやすらぎ温品

評価年月日 H20年 3月 1日

記入年月日 H20年 3月 10日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 Aユニットリーダー 氏名 藤井 美実

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	----------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	開所時に全スタッフと練り上げた事業所理念を持っている。		グループホームをより地域に根ざした物、良質な「地域資源」とし入居者様やスタッフが、真に地域住民の一員となれるよう今後も取り組んでいきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフルームに掲示し、朝礼時に日勤者全員で復唱し業務を始めている。またスタッフ個々にも配布し、施設理念を行動規範とするよう促している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	2ヵ月に一度の運営推進会議の場での情報開示、グループホームの取り組みについての報告を継続している。また同じ地区の住民の方々にグループホームの機能等について説明したりした。		啓発活動や、認知症に関するアドバイス等を効果的に広げられるような「情報の発信拠点」にグループホームをしていきたいと考えている。

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	入居者様との散歩や買物の際、近隣の方と出合った際にはこちらから積極的に挨拶するように、また見学があった際にも笑顔で対応するようスタッフに徹底している。逆に近隣の方から、花や野菜の苗、タオルなどを頂いたりした。		現在ホームの畑の野菜の育成や収穫についても、近隣の方から、アドバイスやお世話を手伝って頂いているが、収穫の分配等を通じて近隣との交流が図れるような取り組みを考えたい。広報紙を定期的に発行し行事等を載せ近隣の方に周知してもらっている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会、老人会には、現在のところ参加できていないが、グループホームの広報紙を地域回覧と一緒に廻して頂いたり、公民館との連携のお話や、近隣老人ホームとの共同行事などが行えている。		今後も地域の中で様々な方面と連携協力を深め、グループホームとしての機能を地域に役立てていきたいと考えている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	具体的には実績を上げてはいないが、防災や、その他の地域協力の場面に、グループホームの人的、物的資源をいつでも使って頂けるよう様々な機会を通してアピールしている。		「子供110番の家」受け入れ。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	まだ開所して1年と浅いが、評価を受けた際には結果を真摯に受け止め、改善指定校という意欲は管理者はじめ主管スタッフが意識として明確に持っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の中で頂いた意見はすぐに(+)に反映できるよう、議事録などをスタッフ間に回覧し、意識共有を図ると同時に、サービス向上に繋がる物はできることであれば早め実践するよう心がけている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	まだ不十分であるが、昨年夏に一度、区の総合窓口との連携で、同区の「介護者をかかえる家族の会」の方たちをグループホームに招いて機能説明や交流の機会を持った。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	今現在、当グループホームには、成年後見制度を活用されている方が2名おられ、それぞれの後見人の方との連絡、相談、情報交換、あるいは話し合いを持っている。		スタッフ全体の対APPのために後見人制度や、地域権利擁護についての学習会などを今後グループホーム内で行ってみたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	最近、職場内に「身体拘束廃止委員会」を設けて定期的に会議を持っている。		スタッフの方にも疲れやストレスがたまらないよう配慮し、良質なケアが提供できるようコミュニケーションをとるようにしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は管理者ともう一名のスタッフを立ち合いの元で時間をかけて契約作業を行っているまた契約書類全般の複写を1冊のファイルに綴り御家族に保管頂くよう慣例化している。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	運営推進会議の際、各棟のご利用者の代表にも出席いただき意見や苦情を聴取する機会は設けているつもりだが、まだ充分機能しているとはいえない。ただそのような事があれば、直ちに改善し運営に反映させるよう心がけている。		スタッフだけの会議ではなく、入居様を交えた会議を行い、不満や意見、日ごろの思いを言い合える場を設けてみたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会の機会を活用したり、3ヵ月に一度、ケアプランの見直しをしその都度の説明の際に、ご本人の状況や暮らしぶりについて報告しているまた合わせてスタッフの状況等もお伝えするようにしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見や苦情を聴取する機会は設けているつもりだが、まだ充分機能しているとはいえない。ただそのような事があれば、直ちに改善し運営に反映させるよう心がけている。		ホームの苦情窓口担当を周知して頂き不満を話しやすい環境等を整備していきたい。ご家族への苦情、満足度アンケートを送付し、施設へのわだかまりを排除などに努めている。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度のスタッフ会議、計画作成者会議などを活用している。また小委員会であるが「業務改善委員会」なども立ち上げ定例の会議報告を行っている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	上記に同じ、また同グループ内の事業所とも意見交換をして、状況の変化などに善処できるよう対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	できる範囲で配慮している。		
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	グループ内、事業所内での「部内研修」を定期的に行っている。外部研修においても、法人命令の研修参加以外に自己研鑽のための研修費用もスタッフ個々に設定されている。		エルダー方式を活用し、お互いを向上し合える関係作りを目指している。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	そのような機会があればこちらから積極的に参加しているし、ネットワーク作りも考えているがまだ充分とはいえない		スタッフ同士の交換研修や、見学、勉強会等、同グループ内の施設同士で向上していけるようなネットワーク作りを強化できたら良いと思う。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職場活性やスタッフの連帯協力、ストレス軽減に反映させる目的で使用できる「目標達成活動費」が設定されている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	定期的にスタッフ個々に「状況記入シート」を配布しそれに基づいた面談を管理者と行っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	個別支援の充実を意図した情報収集を心がけているので、特に入居時などは御家族、ご本人と話し合いを行い、入居までの不安や希望などを、聞き、それに添えるよう努力している。		時には、個別でお話しする時間を作り、入居者様の思いに耳を傾けていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	同上		意見BOXなどを設置できたら良いと思う。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	上記対応を継続しながら、できるだけ柔軟に対応できるよう心がけている。		入居前の面談で、必要と思われる支援を見極め暫定的なプランを立てる。スタッフ全員がそれを把握できるよう努めたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居当初は、本人の生活ベースを見極めながらスタッフが間に入りほか入居者様たちと良好な関係が保て、馴染めるよう工夫している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフからの一方的な関係作りではなく相互の交流による関係構築、一緒に音楽を聴いたり笑ったりする雰囲気作りを心がけている。		入居者様に教えて頂いたり、手伝っていただける機会も多い。一緒に考えながら生活する事を心がけている。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	年2回の「家族会」をメインとして普段から面会時などにおいて家族との関係構築を深め共に連携して、入居者様を支えていけるよう確認しあっている。		御家族からの意見や意向を皆で共有し、改善の努力を行っていく。
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	アセスメントシートや「センター方式」等を使用し、御家族にも記入して頂いて理解を深め関係構築をしている。		新たな情報等もセンター方式シートに継続して記入していき、その積み重ねによって本人に対する理解が深まるよう努めていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前に出入りしていた喫茶店などへの来訪、近隣への外出機会を作る等して工夫している。		今後個別の希望にこれまで以上に添えるよう取り組んでいきたい。手紙や電話連絡等を活用しての関係維持も行っていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	午後の時間など、リビングにみなが集まれるような雰囲気作りを行い、それぞれが、また皆で相互に関われるようスタッフがサポートして促している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ごく最近他施設転居のため一件の退居ケースがあったがその後も先方施設に状態をお聞きしたり、様子を見に行くなどしている。		退居の際には、ホームや、それ以前の段階で積み重ねてきた情報が途切れないようなるべく細かくお伝えし、その方がなるべく早く新しい生活に馴染めるようにお付き合いしていきたい。
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できるだけそのように対処している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	「センター方式シート」を活用して、入居前の状況や本人の趣向などを御家族、ケアマネ等を通じて把握するよう努めている。		御家族や、入居されたご本人より、新たな情報が入れば、その都度書き加えていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	定期的な個別アセスメント、支援計画の見直しを行って入居者様の状況を把握するように努めている。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月に2度個別ケアカンファレンスを行いスタッフと支援方法や方向を検討しながら介護計画を立てている。		今後は必要に応じて、御家族にもケアカンファレンスに出席して頂けるよう取り組んでいきたい。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直しの基本は3ヵ月に一度だが顕著な状況の変化や、入院などの状況が発生した場合にはそれに即した計画の見直し変更を迅速に行うよう心がけている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	主に「生活状況記録」「個別ケア記録」の2種類を中心に日々の様子を記録している。		記録、気づきがケアに活かされるよう記録様式の改善を随時行っている。
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	できるだけ希望に添えるよう対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	まだ取り組みとして弱いですが、行事の際の地域ボランティア等との協力公民館活動との連携などを模索している。		入居者様の作品が、公民館で飾られたり公民館との連携で、入居者様が意欲的に作品作りに取り組めるようにしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	連携できる体制作りは進めている。必要に応じて連絡・相談をさせてもらっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	近隣の地域包括支援センターとの連携強化に努めている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	常時医療連携体制とっている医療機関の他に、近隣に必要な時に診療に伺える「かかりつけ医」の関係を構築している。		医療面について専門的な知識や技術、情報等に関して、DrやNrsに適宜勉強会などを開いて頂けるよう要請していきたい。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	当ホームの主治医は「認知症専門医」である。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	1週間に一度定期的に看護師の来訪を受けながら各入居者様の状態などを報告、相談しながら連携を保っている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	現在入院者が1名おられるが定期的に様子を伺いに訪れ、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、また当方の支援方針について御家族に説明し、ご理解を頂いている。</p>		<p>まだ充分とはいえない、今後し錠取組んでいきたい。</p>
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>上記の考え方にに基づき、普段から、スタッフ・医療・家族と連携を図りながら取り組み、検討、準備を行っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>当ホームから在宅への移動ケースはまだないが、もしそのような事態が起こった際には、ご本人・家族との話し合いなどを密に行い、ダメージを防ぐことに務めようと考えている。</p>		
<p style="text-align: center;"><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>声かけや言葉遣いには特に気をつけるようスタッフに徹底している。個人情報について受診時等に、必要最小限の情報に限り開示している。また写真や映像等も使用許可の範囲を伺った上で使用させて頂いている。その他の場合は必ず御家族に事前相談を行っている。</p>		<p>スタッフの動き、言動、情報伝達等には充分配慮し、入居者様に不満や不信感をもたれない様、常に注意していきたい。またそのための意識徹底を継続して行っていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>左記のような対応ができるようスタッフ全体で常に心がけている。</p>		<p>日常のささいな事でも(例えば食事のメニュー決めや洋服選び等)御自分で決定できるような支援を行っていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>左記のような対応ができるようスタッフ全体で常に心がけている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	家族の希望なども伺いながら、協力頂き、左記のような対応を行っている。また外出や行事の際には、お化粧品をしたり、おしゃれ着を着たりできるよう声かけをしている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎夕食のメニューは入居者の皆様に決めて頂き、その日の午後スタッフと一緒に買物に出ている。また献立に応じて食事準備、配膳等手伝って頂いている。		食事の時だけでなく、おやつの時も入居者様、スタッフが一緒に座り、お互いゆっくりくつろげる時間の流れを作りたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	行事開催のタイミングや、誕生日などの節目をとらえて無理のない量の酒類をお出ししたりおやつなども一緒に手作りしたりして日常的に工夫をしている。		病気等で趣向品の制限がある場合でもそれに値するような楽しみや、気分転換になる物を見つけた。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	支援計画見直しの際に排泄の失敗の原因分析やリハビリパンツ・尿取りパットの使用量を無理なく軽減するにはどうしたらよいか、また、排泄自立につなげるためにはどうしたらよいかという視点で支援するようスタッフ全員で徹底を図っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴を敬遠しがちな方にも入浴して頂けるよう、入浴室の雰囲気作り、入浴前からの導入の関わりをスタッフ全体で持つようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者様一人一人の生活ベースの維持を第一に考えている。日中の疲れが極端に確認できたり、気分不良などの状況が伺えた時にはリビングのソファベッドや居室で休んで頂いたり、短い睡眠をとって頂いたりできるよう支援している。		リビングにベッドを設置し、見守りが必要な方も適宜休憩がとれるようにしたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々が過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人様の入居前の生活状況を御家族などから情報収集し個々に合った役割、楽しみごと、気晴らしの支援ができるよう取り組んでいる。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的に入居者様に現金を所持してもらったり、個人的な現金をお預かり、管理することは行っていない。ただできるだけ入居者様の希望に添えるようスタッフ同伴の買物や外出機会などを増やし、立替などで対応している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	上記記入のようにできるだけ入居者様の希望に添えるようスタッフ同伴の散歩、買物、行事等での外出機会を増やし、戸外にできるだけ出られるように支援しているがまだ充分ではない。		買物や散歩等に日常的に出かけられるような体制にしたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族の協力なども仰ぎながらできるだけ希望に添えるよう支援しているがまだ充分ではない。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や暑中見舞い等ご本人に届いた書簡に対してはできるだけご本人にお返事を書いて頂いたり、状況に応じて電話での話して頂いたりしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会等で訪問の際は、面会票を書いて頂いた上、特に制限なくご本人とお話して頂いている。お茶などもその都度お出ししてできるだけ居心地よく過ごせるよう工夫している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束廃止委員会」を作り定期的な会議を開くなどして、基本的な拘束禁止の趣旨についてスタッフ全体に意識付けするよう徹底している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間 20 時を過ぎた時点で防犯のために玄関に施錠を行うがその他の場合においては鍵をかけないケアに取り組んでいる。		入居者様が出掛けたい時になるべく対応できるよう、出入り口の安全対策を検討中。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	「見守りケア」の重要性を日ごろから徹底し、スタッフの声かけ連携や、巡回の随時実施等で、昼夜通して入居者様の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	医療物品、重要書類、金銭等は施錠のできる専用のロッカーや保管場所に定位置化して保管・管理を行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	内部及び外部における研修参加などによって知識の向上を目指し対応できるよう努めている。		一人ひとりに対応した様々なリスクを想定し緊急時に動けるよう勉強会等をしていきたい。
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	同上		緊急時の対応、連絡の手順、内部研修の時間を活用し周知徹底していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的な防災・避難訓練を行っている。地域の方とも運営推進会議を基盤にして、様々な災害の時には協力の用意があること、連携の方法等について確認しあっている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	面会時や、電話連絡等で、家族とのコミュニケーションを保ちながら趣旨説明に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	スタッフ連絡帳や個別ケア記録などで入居者様の状況の情報共有を行い、また緊急連絡網も整備し、異変の発見や症状の重篤化などにも速やかに受診や緊急対応が行えるように準備している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別に処方リストを綴っており、また病院受診時の状況何を目的にどのような効能の薬剤が処方されたのか、さらにDrの指示、注意内容等を記する受診記録簿を作って活用している。		本人持ちの常備薬の整理を各担当で行い入居者様の体調変化に応じて使いやすい様にしたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	「自然に排泄が行えるのが理想」という意識をスタッフ全体で共有している。それに基づき予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		予防するための運動や、食物繊維の摂取なども心がけ、なるべく下剤を使用しないような対応をしていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝昼夕食後の口腔衛生の励行、義歯洗浄など徹底して行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	脱水が身体に与えるリスクの大きさについてスタッフ全員に意識付けを徹底し、一日の摂取水分量を設定し確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		糖尿病や体重増加の傾向にある方に対して、栄養士と連携して、適切な量や献立内容についての理解を深めていきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設内の清潔保持はもとより、外部からの雑菌の侵入防止のための手指の消毒、うがいの励行、体調や状況に応じたマスク、手袋、エプロンの着用を義務付けている。 感染症が疑われる場合には、すぐに対応できるよう「対策セット」として(エプロン・マスク・手袋等)を揃え定位置に設置している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	エプロンの着用、履物の履き替えを励行し、包丁やまな板なども紫外線消毒を行うなどして、徹底している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、試みとして家族、ご本人の承諾を得て、全入居者様の個人表札を玄関に表示させて頂いている。		草花を置き、明るい雰囲気になるよう心掛けたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清掃を行き届かせる努力を継続しながら、掲示板に季節に応じた行事の写真を飾ったり、B'ingに音楽を常時低音量で流してリラックスして頂ける様に配慮している。		入居者様の目線や立場に立ち点検や確認を行いたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者同士のコミュニケーションもとれており、個人ごとの空間も確保されていると思う。		入居者様同士の関係作りにも配慮していきたい。 (不穏時の対応やスタッフの介入の仕方等)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室のレイアウトは、ご本人が馴染みやすいよう「畳を敷く」等様々、御本人に合った工夫をするよう勤めている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	日中、夜間とスタッフが外気温やおいや空気のおよみ等の周りの状況に配慮しながら、入居者様の状況に応じて配慮するよう連携しあって常に心がけている。また、毎朝の掃除時、全居室の換気を行っている。		衛生管理委員会を中心に、空調の清掃が定期的に行えるようにしたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの工夫、運動やリハビリ器具の工夫等行い、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	どの入居者様に対しても一つ一つの事柄に対して、説明を行ってから促すように心がけている。またできるだけ傾聴姿勢をとり、入居様の意図を理解したうえで個々の状況に応じて混乱の生じないよう分かっていたく取り組みを行っているがまだ充分ではない。		
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	屋外に畑を作り野菜を収穫したり、プランターの花の世話を入居者様と一緒にしたり、建物の外周を散歩できるように整備している。		玄関先にベンチを置く等、外の空気に触れ、リラックスできる環境を作りたい。



# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名

グループホームやすらぎ温品

評価年月日 H20年 3月 1日

記入年月日 H20年 3月 10日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 Bユニットリーダー 氏名 高山 利雄

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-----------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	開所時に全スタッフと練り上げた事業所理念を持っている他Bユニットとしても、事業所理念に即した独自の理念を掲げている。		グループホームをより地域に根ざしたものの、良質な「地域資源」とし入居者様やスタッフが、真に地域住民の一員となれるよう今後も取り組んでいきたい。 B棟としても独自の入居者主体の理念を掲げている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフルームに掲示し 毎朝礼時に日勤者全員で復唱し業務を始めている。またスタッフ個々にも配布し、施設理念を行動規範とするよう促している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	2ヵ月に一度の運営推進会議の場での情報開示、グループホームの取り組みについての報告を継続している。また同じ地区の住民の方々にグループホームの機能等について説明したりした。		啓発活動や、認知症に関するアドバイス等を効果的に広げられるような「情報の発信拠点」にグループホームをしていきたいと考えている。

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	入居者様との散歩や買物の際、近隣の方であった際にはこちらから積極的に挨拶するように、また見学があった際にも笑顔で対応するようにスタッフに徹底している 逆に近隣の方から、花や野菜の苗、タオルなどを頂いたりした		現在ホームの畑の野菜の育成や収穫についても、近隣の方から、アドバイスやお世話を手伝って頂いているが、収穫の分配等を通じて近隣との交流が図れるような取り組みを考えたい。広報紙を定期的に発行し行事等を載せ近隣の方に周知してもらっている。入居者様、スタッフ共、散歩、買い物等々を含め住民の方々への挨拶に努めている。
---	---	---	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会、老人会には、現在のところ参加できていないが、グループホームの広報紙を地域回覧と一緒に廻して頂いたり、公民館との連携のお話や、近隣老人ホームとの共同行事などが行っている。		今後も地域の中で様々な方面と連携協力を深め、グループホームとしての機能を地域に役立てていきたいと考えている。 自治会、老人会、行事等地域活動に参加をしたい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	具体的には実績を上げてはいないが、防災や、その他の地域協力の場面に、グループホームの人的、物的資源をいつでも使って頂けるような様々な機会を通してアピールしている。		「子供110番の家」受け入れ。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	まだ開所して1年と浅いが、評価を受けた際には結果を真摯に受け止め、改善していくという意欲は管理者はじめ主管スタッフが意識として明確に持っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の中で頂いた意見はすぐに(+)に反映できるよう、議事録等をスタッフ間に回覧し、意識共有を図ると同時に、サービス向上に繋がると思われるものは実践するよう心がけている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	まだ不十分であるが、昨年夏に一度、区の総合窓口との連携で、同区の「介護者をかかえる家族の会」の方たちをグループホームに招いて機能説明や交流の機会を持った。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	今現在、当グループホームには、成年後見制度を活用されている方が2名おられ、それぞれの後見人の方との連絡、相談、情報交換、あるいは話し合いを持っている。		スタッフ全体のスキルアップのために後見人制度や、地域権利擁護についての学習会などを今後グループホーム内で行ってみたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	最近、職場内に「身体拘束廃止委員会」を設けて定期的に会議を持っている。		スタッフの方にも疲れやストレスが溜らないよう配慮し、良質なケアが提供できるようコミュニケーションをとるようにしていきたい。小委員会「身体拘束廃止委員会」を立ち上げ、活動を通して防止の意識徹底を図っている。
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は管理者ともう一名のスタッフを立ち合いの元で時間をかけて契約作業を行っている また契約書類全般の複写を1冊のファイルに綴り御家族に保管頂くよう慣例化している。		アセスメントシート等を用い利用者、家族との話し合いを充分行い心配事を軽減できるよう具体的に配慮した。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	運営推進会議の際、各棟のご利用者の代表にも出席いただき意見や苦情を聴取する機会は設けているつもりだが、まだ充分機能しているとはいえない。ただそのような事があれば、直ちに改善し運営に反映させるよう心がけている。		スタッフだけの会議ではなく、入居者様を交えた会議を行い、不満や意見、日ごろの思いを言い合える場を設けてみたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会の機会を活用したり、3ヵ月に一度ケアプランの見直しをしその都度の説明の際に、ご本人の状況や暮らしぶりについて報告しているまた合わせてスタッフの状況等もお話している。		御家族の中には遠距離に住まわれている方も居られるため日常生活の報告もかねて広報紙「やすらぎだより」等を定期的に送付し安心感を持って頂ける様に努めたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見や苦情を聴取する機会は設けているつもりだが、まだ充分機能しているとはいえない。ただそのような事があれば、直ちに改善し運営に反映させるよう心がけている。		ホームの苦情窓口担当を周知して頂き不満を話しやすい環境等を整備していきたい。ご家族への苦情、満足度アンケートを送付し、施設へのわだかまりを排除している。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度のスタッフ会議、計画作成者会議などを活用している。また小委員会であるが「業務改善委員会」なども立ち上げ活動している		入居者様の御家族に「満足度調査」なども送付し、意見の吸い上げを図った。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	上記に同じ、また同グループ内の事業所とも意見交換をして、状況の変化などに善処できるよう対応している		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	できる範囲で配慮している。		
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	グループ内、事業所内での「部内研修」を定期的に行っている。外部研修においても、法人命令の研修参加以外に自己研鑽のための研修費用もスタッフ個々に設定されている。		エルダー方式を活用し、お互いを向上し合える関係作りを目指している。今後他施設への見学等も行っていいたら良いと思う。同業他社への訪問、見学が出来ればスタッフのスキルアップ向上に役立つと思う。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	そのような機会があればこちらから積極的に参加しているし、ネットワーク作りも考えているがまだ充分とはいえない		スタッフ同士の交換研修や、見学、勉強会等、同グループ内の施設同士で向上していけるようなネットワーク作りを強化すると同時に、外部研修等もできたら良いと思う。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職場活性やスタッフの連帯協力、ストレス軽減に反映させる目的で使用できる「目標達成活動費」が設定されている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	定期的にスタッフ個々に「状況記入シート」を配布しそれに基づいた面談を管理者と行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	個別支援の充実を意図した情報収集を心がけているので、特に入居時などは御家族、ご本人と話し合いを行い、入居までの不安や希望などを、聞き、それに添えるよう努力している。		時には、個別でお話する時間を作り、入居者様の思いに耳を傾けていきたい。面会に来られたら必ず挨拶に伺い、状況報告をしている。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	個別支援の充実を意図した情報収集を心がけているので、特に入居時などは御家族、ご本人と話し合いを行い、入居までの不安や希望などを、聞き、それに添えるよう努力している。		意見BOXなどを設置できたら良いと思う。面会時には必ず情報交換を行うようにしている。家族との相談で判断できなければ管理者に相談。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	上記対応を継続しながら、できるだけ柔軟に対応できるよう心がけている。		入居前の面談で、必要と思われる支援を見極め暫定的なプランを立てる。スタッフ全員がそれを把握できるよう努めたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居当初は、本人の生活ペースを見極めながらスタッフが間に入りほか入居者様たちと良好な関係が保て、馴染めるよう工夫している。		

### 2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフからの一方的な関係作りではなく相互の交流による関係構築、一緒に音楽を聴いたり笑ったりする雰囲気作りを心がけている。		入居者様に教えて頂いたり、手伝っていただける機会も多い。一緒に考えながら生活する事を心がけている。本人の意志を尊重しながら行動に移し、笑みがこぼれる様な支援を心がけている。
----	---	---	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>年2回の「家族会」をメインとして普段から面会時などにおいて家族との関係構築を深め共に連携して、入居者様を支えていけるよう確認しあっている。</p>		<p>御家族からの意見や意向を皆で共有し、改善の努力を行っていく。 面会される時対話を重視し、何時でも面会に来ていただける環境作りを心がけている。</p>
29	<p>本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>アセスメントシートや「センター方式」等を使用し、御家族にも記入して頂いて理解を深め関係構築をしている。</p>		<p>新たな情報等もセンター方式シートに継続して記入していき、その積み重ねによって本人に対する理解が深まるよう努めていきたい。 本人とご家族との構築を第一にして面会時の会話を確保している。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>以前に出入りしていた喫茶店などへの来訪、外出機会を作ったりして支援している。</p>		<p>今後個別の希望にこれまで以上に添えるよう取り組んでいきたい。手紙や電話連絡等を活用しての関係維持も行っていきたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>午後の時間など、リビングにみなが集まれるような雰囲気作りを行い、それぞれが、また皆で相互に関われるようスタッフがサポートして促している。</p>		<p>スタッフそれぞれが利用者の状況を把握し、訪室しながら関係を保ち孤立化を防止している。</p>
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>ごく最近他施設転居のため一件の退居ケースがあったがその後も先方施設に状態をお聞きしたり、様子を見に行くなどしている。</p>		<p>退居の際には、ホームや、それ以前の段階で積み重ねてきた情報が途切れないようなるべく細かくお伝えし、その方がなるべく早く新しい生活に馴染めるようお付き合いしていきたい。</p>



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

### その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1 一人ひとりの把握

33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できるだけそのように対処している。		現在一人一人の希望、意向を全員に何う段階まで来ていない。すべての利用者にゆっくりと話し合える「ゆとり」もほしい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	「センター方式シート」を活用して、入居全の状況や本人の趣向などを御家族、ケアマネ等を通じて把握するよう努めている。		御家族や、入居されたご本人より、新たな情報が入れば、その都度書き加えていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。	定期的な個別アセスメント、支援計画の見直しを行って入居者様の状況を把握するよう努めている。		一人一人の方が安心して過ごせる様、声かけに心がけている。

#### 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月に2度個別ケアカンファレンスを行いスタッフと支援方法や方向を検討しながら介護計画を立てている。		今後は必要に応じて、御家族にもケアカンファレンスに出席して頂けるよう取り組んでいきたい。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直しの基本は3ヵ月に一回だが顕著な状況の変化や、入院などの状況が発生した場合にはそれに応じた計画の見直し変更を迅速に行うよう心がけている。実践している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	主に「生活状況記録」「個別ケア記録」の2種類を中心にして日々の様子を記録している。		記録気づきがケアに生かされるよう記録様式の改善を随時行っている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況，その時々 の要望に応じて，事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている。	できるだけ希望に添えるよう 対処している。		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に 応じて，民生委員やボラン ティア，警察，消防，文化 ・教育機関等と協力しなが ら支援している。	まだ取り組みとして弱い が，行事の際の地域ボラン ティアとの協力公民館活動 との連携などを模索してい る。		入居者様の作品が，公民館 で飾られたり公民館との 連携で，入居差様が意欲 的に作品作りに取り組める ようにしていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に 応じて，地域の他のケア マネージャーやサービス事 業者と話し合い，他のサー ビスを利用するための支援 をしている。	連携できる体制作りは進 めている。必要に応じて 連絡・相談をさせてもら っている。		
42	地域包括支援センター との協働 本人の意向や必要性に 応じて，権利擁護や総合 的かつ長期的なケアマネ ジメント等について，地 域包括支援センターと協 働している。	近隣の地域包括支援セン ターとの連携はとってい る。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望 を大切に，納得が得られ たかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら，適 切な医療を受けられるよ う支援している。	常時連絡診察して頂ける 医療機関の他に，協力を 結んだ近隣各科の医療機 関で必要な時に診療に 伺える「かかりつけ」の 関係を構築している。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	「認知症専門医」との連携体制診断、治療が受けられる体制を整えている。		医療面について専門的な知識や技術、情報等に関して、DrやNrsに適宜勉強会などを開いて頂けるよう要請していきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	1週間に一度定期的に看護師の来訪を受けながら入居者様の状態などを報告、相談しながら連携を保っている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	現在入院者が1名の入院者がおられるが定期的に様子を伺いに訪れ、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、また当方の支援方針について御家族に説明申し上げご理解を頂いている。		今後、意識共有、方針確認が明確にできるよう書類などの整備を行っていきたい。重度化を想定し、常日頃から入居されたら終末期までケアさせていただけるような対応を心がけていきたい。
48	重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	上記の考え方にに基づき、普段から、スタッフ・医療・家族と連携を図りながら取り組み、検討、準備を行っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	当ホームから在宅への移動ケースはまだないが、もしそういう事態が起こった際には、ご本人・家族との話し合いなどを密に行い、ダメージを防ぐことに努めようと考えている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

### その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 1 その人らしい暮らしの支援

##### (1) 一人ひとりの尊重

50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	声かけや言葉遣いには特に気をつけるようスタッフに徹底している。個人情報について受診時等に、必要最小限の情報に限り開示している。また写真や映像等も使用許可の範囲を伺った上で使用させて頂いている。その他使用要件発生の際は必ず御家族に事前相談を行っている。		入居者様の前でのスタッフの動き、言動、情報伝達等には充分配慮し、入居者様に不満や不信感をもたれない様常に注意していきたい。またそのための意識徹底を継続して行っていきたい。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	左記のような対応ができるようスタッフ全体で常に心がけている。		日常のちょっとしたことでも（例えば食事のメニュー決めや洋服選び等）御自分で決定できるような支援を行っていきたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	左記のような対応ができるようスタッフ全体で常に心がけている。		その日どのように過ごしたいか希望を聞き、ゆとりある支援を心がけたい。

##### (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	家族の希望なども伺いながら、協力頂き、左記のような対応を行っている。また外出や行事の際には、お化粧をしたり、おしゃれを着たりできるよう声かけをしている。		散髪は理容店、女性スタッフによってカットし、整髪・整容に気をつけている。
----	---	--	--	--------------------------------------

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>毎夕食のメニューは入居者の皆様に決めて頂き、その日の午後スタッフと一緒に買物に出ている。また献立に応じて食事準備を手伝って頂いたり、配膳して頂いたりしている。</p>		<p>食事の時だけでなく、おやつの時も一緒に座り、お互いゆっくりくつろいで頂ける時間の流れを作りたい。 盛付、ラフヨマット、清潔、下膳できる方に実行してもらっている。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>行事開催のタイミングや、誕生日などの節目をとらえて無理のない量の酒類をお出ししたりおやつなども一緒に手作りしたりして日常的に工夫をしている。</p>		<p>病気等で趣向品の制限がある場合でもそれに値するような楽しみや、気分転換になる物を見つけたい。</p>
56	<p>気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>支援計画見直しの際に排泄の失敗の原因分析やリハビリパンツ・尿取りパットの使用量を無理なく軽減するにはまた、排泄自立につなげるためにはどうしたらよいか？という視点で支援できるようスタッフ全員で徹底を図っている。</p>		<p>記録を確認し、実施し、水分摂取に気をつけている。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>入浴を敬遠しがちな方にも入浴して頂けるよう、入浴室の雰囲気作り、入浴前からの導入の関わりをスタッフ全体で持つようにしている。</p>		<p>自己尊重し、入浴してもらっている。</p>
58	<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>入居者様お一人お一人の生活ペースの維持を第一に考えている。日中の疲れが極端に確認できたり、気分不良などの状況が伺えた時にはリビングのソファベッドや居室で休んで頂いたり、短い睡眠をとって頂いたりできるよう支援している。</p>		<p>リビングにベッドを設置し、見守りが必要な方も適宜休憩がとれるようにしたい。 本人の希望があれば、居室に戻られ休んでいただく。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々が過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人様の入居前の生活状況を御家族などから情報収集し個々に合った役割、楽しみごと、気晴らしの支援ができるよう取り組んでいる。		活性化していただくため、必ず何かをしていただく。玉ねぎ、人参、じゃがいも、絹さや等々の皮むき、昼食、夕食の手伝い。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的に入居者様に現金を所持してもらったり、個人的な現金をお預かり、管理することを行っていない。ただできるだけ入居者様の希望に添えるようスタッフ同伴の買物や外出機会などを増やし、立替などで対応している。		原則として所持金なし。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	上記記入のようにできるだけ入居者様の希望に添えるようスタッフ同伴の散歩、買物、行事等での外出機会を増やし、戸外にできるだけ出られるように支援しているがまだ充分ではない。		買物や散歩等に日常的に出かけられるような体制にしたい。 寒い時期は控えさせていただき、自己尊重している2F理念を踏まえ実行。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族の協力なども仰ぎながらできるだけ希望に添えるよう支援しているがまだ充分ではない。		春夏秋冬季節感を味わっていただき、今後の課題としてメリハリが必要と思う。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や暑中見舞い等ご本人に届いた書簡に対してはできるだけご本人にお返事を書いて頂いたり、状況に応じて電話での話して頂いたりしている。		年賀状、手紙試みたが、意欲がなかった。 他の情報伝達を考え実行したい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会等で訪問の際は、面会票を書いて頂いた上、特に制限なくご本人とお話しして頂いている。お茶などもその都度お出ししてできるだけ居心地よく過ごせるよう工夫している。		「挨拶」「見送り」をさせていただき、「面会に来て歓迎されている」ことを分かってもらえるよう心がけている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束廃止委員会」を作り定期的な会議を開くなどして、基本的な拘束禁止の趣旨についてスタッフ全体に意識付けするよう徹底している。		常識的に考えしてはならないこと。対話を重視し、ゆとりをもったケアが出来るシステム作りに心がけたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間20時を過ぎた時点で防犯のために玄関に施錠を行うがその他の場合においては鍵をかけないケアに取り組んでいる。		入居者様が出掛けたい時になるべく対応できるように、出入り口の安全対策を検討中。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	「見守りケア」の重要性を日ごろから徹底し、スタッフの声かけ連携や、巡回の随時実施等で、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	医療物品、重要書類、金銭等は施錠のできる専用のロッカーや保管場所に定位置化して保管・管理を行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	内部及び外部における研修参加などによって知識の向上を目指し対応できるよう努めている。		一人ひとりに対応した様々なリスクを想定しいざという時に動けるよう勉強会等をしていきたい。
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	内部及び外部における研修参加などによって知識の向上を目指し対応できるよう努めている。		緊急時の対応、連絡の手順、内部研修の時間を活用し周知徹底していきたい。 マニュアルとスタッフが十分に把握しその場でコントロールできるようにしたい。



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的な防災・避難訓練を行っている。地域の方とも運営推進会議を基盤にして、様々な災害の時には協力の用意があること、連携の方法等について確認しあっている。		12月実施。次月6月。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時や、電話連絡等で、家族とのコミュニケーションを保ちながら趣旨説明に努めている。		心配だ、問題だと思えば、スタッフと話し合い、家族に電話連絡し相談する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	スタッフ連絡帳や個別ケア記録などで入居者の状況の情報共有を行い、また緊急連絡網も整備し、異変の発見や症状の重篤化などにも速やかに受診や緊急対応が行えるように準備している。		看護師、Dr、緊急時その都度連絡。栄養士を含めた活用を図り、利用者が安心して暮らせるように心がけたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別に処方リストを綴っており、また病院受診時の状況何を目的にどのような効能の薬剤が処方されたのか、さらにDrの指示、注意内容等を記す受診記録簿を作って活用している		本人持ちの常備薬の整理を各担当で行い入居者様の体調変化に応じて使いやすい様にした。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	「自然に排泄が行えるのが理想」という意識をスタッフ全体で共有している。それに基づき予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		予防するための運動や、食物繊維の摂取なども心がけ、なるべく下剤を使用しないような対応をしていきたい。 汁を除き、水分を1000cc摂取していただく。朝食後全員の方に牛乳摂取していただいている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝昼夕食後の口腔衛生の励行、義歯洗浄など徹底して行っている。		朝昼夕実施している。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	脱水が身体に与えるリスクの大きさについてスタッフ全員に意識付けを徹底し、一日の摂取水分量を設定し確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		糖尿病や体重増加の傾向にある方に対して、栄養士と連携して、適切な量や献立内容についての理解を深めていきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設内の清潔保持はもとより、外部からの雑菌の侵入阻止のための手指の消毒、うがいの励行、体調や状況に応じたマスク、手袋、エプロンの着用を義務付けている。 感染症が疑われる場合には、すぐに対応できるよう「対策セット」として(エプロン・マスク・手袋等)を揃え定位置に設置している。		外出後の手洗い、うがい。食事前の消毒。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	エプロンの着用、履物の履き替えを励行し、包丁やまな板なども紫外線消毒を行うなどして、徹底している。		必要な分だけ購入している。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、試みとして家族、ご本人の承諾を得て、前入居者さまの個人表札を玄関に標示させて頂いている。		草花を置き、明るい雰囲気になるよう心掛けたい。 玄関の掃除、駐車場周辺のごみ拾い。室内に「やすらぎ」を求められるように花々の設置。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清掃を行き届かせる努力を継続しながら、掲示板に季節に応じた行事の写真を飾ったり、リビングに音楽を常時低音量で流してリラックスして頂ける様に配慮している。		入居者様の目線や立場に立ち点検や確認を行いたい。 浴室、トイレに季節感がないように思うので工夫をしてみたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ほとんどすべての方が日中リビングに出ておられ、思い思いの取り組みをされたり気の合った入居者同士ではなされたり、また協力して家事作業をしておられたりして、協力、支えあいの関係が、雰囲気として出来上がっている。		入居者様同士の関係作りにも配慮していきたい。(不穏時の対応やスタッフの介入の仕方等) 音楽鑑賞、花、ゲーム。
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室のレイアウトもベッドにタンスという形と、たたみに布団という本人様親しんだあるいは、使い勝手の良い空間を御家族、ご本人と話し合って整備している。また本人が居心地よく過ごせるような工夫として様々な私物が持ち込まれている。		好みのものを持参してもらっている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	日中、夜間とスタッフが外気温やにおいや空気のおどみ等の周りの状況に配慮しながら、利用者の状況に応じて配慮するよう連携しあって常に心がけている。また、毎朝の掃除時、前居室の換気を行っている。		衛生管理委員を中心にし、空調の清掃が定期的に行えるようにしたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの工夫、運動やリハビリ器具の工夫など行い、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮している。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	どの入居者様に対しても一つ一つの事柄に対して、説明を行ってから促すように心がけている。またできるだけ傾聴姿勢をとり、入居者の意図を理解したうえで個々の状況に応じて混乱の生じないように分かっていただく取り組みを行っているつもりだがまだ充分ではない。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	屋外に畑を作り野菜を収穫したり、プランターや鉢植えの花の世話を入居者様と一緒にしたり、建物の外周を散歩できるように整備したりしている。		玄関先にベンチを置く等、外の空気に触れ、リラックスできる環境を作りたい。